



# 第五〇回秋田県消防操法大会

## 総合優勝は能代市山本郡支部

題 字  
初代会長 松野盛吉  
定 価 1部 5円  
(購読料は年会費に含む)  
発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

第五〇回秋田県消防操法大会は九月六日(金)、秋田県消防学校放水訓練場(由利本荘市岩城)で行われ、県内九支部の予選を勝ち抜いた小型ポンプ操法の部九分団、ポンプ車操法の部七分団が出場し、日頃の訓練の成果を競いました。

### 主催者あいさつ(要約)



秋田県副知事  
堀井 啓一

この操法大会は、消防団員・女性消防隊員の消防技術の向上や消防活動の充実強化を図ることを目的に、昭和三十七年八月、小型ポンプ操法大会を開催したのが始まりで、その後は、全国消防操法大会への出場予選も兼ねて実施しております。

平成六年の第三二回大会以降、本大会で優勝し、全国大会に出場した



秋田県消防協会長  
中田 潤

八月には記録的な豪雨に見舞われ、大きな被害をもたらすなど、激甚災害に指定されたところである。

このような中で、消防団の皆様には、地域における安全・安心な暮らしを守るため、今後も、いつ発生するかわからない様々な災害に迅速に対応し、大きな役割を果たしていただきますようお願い致します。

また、県としても、これまでの大会の成果を踏まえ、今後とも大会内容の充実に向けてまいります。



秋田県市町村総合事務組合管理者  
東成瀬村長  
佐々木哲男

### 来賓祝辞(要約)

消防団の皆様が、郷土の防災リーダーとして、自らの地域は自らの手で守るといふ崇高な使命感の下、防災のみならず福祉や環境など幅広い住民ニーズに添えていただき、地域社会の維持発展に潤滑油として寄与してくださるようお願い致します。

出場隊の皆様には、それぞれの地域を遺憾なく発揮されますとともに、この操法大会が成功裏に執り行われますようご祈念申し上げます。

平成二十五年度全国統一防火標語  
消すまでは 心の警報 ONのまま

平成二十五年秋の火災予防運動  
十一月三日(日)〜十一月九日(土)

# 競 技

各出場団は、それぞれ支部代表として熱戦を繰り広げましたが、今大会の審査班長（後藤洋明 秋田県消防学校教務班長）から審査を通じて感じた事項や印象などを伺いましたので紹介します。

## ■総合

今年是全国大会が行われないことから、全体的にモチベーションの低さが見受けられ、隊員間の温度差も感じられた。

また、規定圧力オーバーの隊もあり、安全管理の低さが見られた。

## ■小型ポンプ操法の部

全体的には熟練された操法であったが、操作中の事故など雑な動きが見られた。

また、器具愛護の精神が低いと見受けられる隊があり残念でした。

## ■ポンプ車操法の部

第一線のホースラインの乱れが多



審査員の皆さん

く、余裕ホースが取れない隊も半数近く見られた。また、指揮位置のずれや、基本的な姿勢が悪い隊員も見られた。



## 操作披露 大仙市女性消防隊 一〇月全国大会に出場

大仙市消防団に女性団員が誕生したのは平成二二年一〇月で、現在の団員数は四〇名となっています。

女性団員たちは、様々なイベントでの防火意識の啓発、住宅用火災警報器の普及指導など地域に密着した活動を展開しているほか、救急救命講習の受講なども行っています。

大会では、キビキビとした動作、明晰な号令など素晴らしい軽可搬ポンプ操法が披露されました。

来る一〇月一七日、横浜市で開催される第二一回全国女性消防操法大会での活躍が大いに期待されます。頑張れ、大仙市女性消防隊。

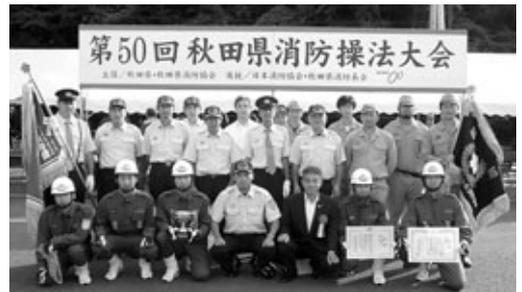
第50回秋田県消防操法大会成績表

【小型ポンプ操法の部】

順位	消防団名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	小坂町消防団第4分団	43.32	80.5
第2位	八峰町消防団第5分団	44.21	76.5
第3位	美郷町消防団第2分団	42.99	73.5
第4位	横手市山内消防団第1分団	44.82	73.5
第5位	東成瀬村消防団第2分団	40.74	71.0
第6位	潟上市消防団飯田川支団第2分団	45.12	67.5
第7位	由利本荘市消防団矢島支団第4分団	43.87	67.0
第8位	秋田市消防団四ツ小屋分団	45.49	66.5
第9位	北秋田市消防団阿仁第3分団	46.27	52.5



小坂町消防団 第4分団



大潟村消防団 第3分団

【ポンプ車操法の部】

順位	消防団名	タイム(秒)		総得点(点)
		第1線	第2線	
優勝	大潟村消防団第3分団	51.63	61.05	182.5
第2位	三種町消防団琴丘支団第1分団	52.28	66.19	176.5
第3位	横手市十文字消防団第3分団	51.82	64.50	172.0
第4位	にかほ市消防団第6分団	52.37	64.90	167.0
第5位	鹿角市消防団第5分団	54.21	63.63	165.5
第6位	大館市消防団比内第4分団	53.40	64.86	159.0
第7位	秋田市消防団保戸野分団	55.57	66.15	153.0



能代市山本郡支部

【総合の部】

優勝 能代市山本郡支部 (総得点 253.0点)



御霊の奉納



安倍 総理

全国的殉職者数は、新たに合祀された八名を加え五、六七九名となりました。

第三二回全国消防殉職者慰霊祭は、九月一二日(木)午前一一時から日本消防会館ニッショーホール(東京都港区虎ノ門)で行われ、秋本敏文日本消防協会長の式辞に続き、安倍晋三内閣総理大臣、新藤義孝総務大臣らが追悼のことばを述べられました。



秋本日消会長



鎮魂の歌 (木遣り)



ご遺族と草薨副会長

安 倍 強		石 井 長 蔵		■本県から出席したご遺族	
殉職者氏名		遺族氏名			
安 倍 海 児	安 倍 久 仁 夫	石 井 テ イ	石 井 茂 司		



秋 田 県  
消 防 学 校

第六七期初任教育修了式  
九五名修了第一線での活躍を期待

秋田県消防学校第六七期初任教育の修了式が九月二〇日(金)、同校の屋内訓練場で修了生のご家族やご来賓約二二〇名が出席して行われ九五名が修了式を迎えました。  
六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越えた修了生は、明日からそれぞれの所属消防本部に着任し、消防士として活動することになります。

修了式は、最初に中村学校長が修了生一人ひとりに修了証書を、また、成績優秀者に表彰状を授与した後、学校長式辞、知事あいさつ(代読)、来賓祝辞、修了生が答辞を述べ、最後に校歌を斉唱して終わりました。

表彰状授与

優 秀 賞(九名)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 秋田市消防本部          | 三浦 聖史 |
| 秋田市消防本部          | 大澤 雄介 |
| 秋田市消防本部          | 水沢 茂樹 |
| 由利本荘市消防本部        | 佐藤 亮  |
| 横手市消防本部          | 下総 広幸 |
| 能代山本広域市町村圏組合消防本部 | 伊藤 健  |
| 能代山本広域市町村圏組合消防本部 | 佐藤 大祐 |
| 能代山本広域市町村圏組合消防本部 | 藤田 岳  |
| 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 | 滝沢 清栄 |
- 功 勞 章(五名)
- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 総代 | 阿部 誠  |
| 横手市消防本部 副総代         | 高橋 洋平 |
| 由利本荘市消防本部 副総代       | 佐藤 卓  |
| 大館市消防本部 会計          | 三浦 兼晴 |
| 横手市消防本部 会計          | 下総 広幸 |

学校長式辞



秋田県消防学校  
学校長  
中村 基

現場においては、真つ正面から立ち向かい、心は「県民の命、財産を守る」という熱き魂で、頭はクールに冷静な目で事態を見極め、果敢に挑戦していただきたい。初心を忘れず、夢を持ち続け、信念を貫き、勇気を持って職責を果たしてほしい。

修了生答辞



湯沢雄勝広域市町村  
圏組合消防本部  
消防士  
阿部 誠

近年では地震や異常気象による大雨・土砂災害など、各種災害による悲惨なニュースは後を絶ちません。私たちは、地域住民の生命、身体及び財産を火災から保護し、水火災又は地震等の災害による被害を軽減するほか、困っている人を助けたいという初心と使命感を忘れず、消防業務に尽力していきます。この半年間、消防学校で培ったことを胸に、各地域そして秋田県消防の更なる発展に資することを誓います。

来賓祝辞



秋田県消防協会  
会長  
中田 潤

これからも日々、消防技能の錬磨向上に努め、地域は自分が守るという確固たる気概と、卓越した技能を身に付けられますことを望むものであります。  
数年後には、一人ひとりが中核的消防職員となり、立派に活動されていることを祈念申し上げます。



**第67期教育 振り返って**  
**初任教育 半年間を**  
**秋田県消防学校**

秋田市消防本部 越川 俊

小さな頃から憧れていた消防士になり、初任科に入學したと思つたら、もう修了式です。熱心に指導していただいた教官方には、本当に感謝の気持ちで胸がいっぱいです。また、六七期の皆さんとは、良きライバルであり、良き仲間として常に共に過ごしてこられたことに感謝していません。これからは、初任科での学び、経験、感覚、そして思い出を大切に消防人生を歩んでいきます。

大館市消防本部 日景 雄大

消防学校での半年間を、六七期九五人で生活することが出来て本当に良かったと思います。初めは不安も多くありましたが、訓練を重ねるうちに、絆ができて切磋琢磨しながら成長することが出来ました。これから、仲間を忘れずに大館で頑張つていきたいです。

北秋田市消防本部 三沢 慶太

消防学校生活では、様々な人との出会いがあり、たくさんの出来事があり、充実した日々を送ることが出来ました。訓練では技術を、座学では頭脳、教官達には精神力、仲間にはチームワークの大切さを学ぶことが

ができ、消防士として一歩ずつ前進できた六ヶ月間でした。

由利本荘市消防本部 須田 祐加

消防人生の出発点となる消防学校で、素晴らしい仲間、教官と出会い、厳しくも楽しく、刺激的な毎日を通してきてきたことは、確実に私を成長させてくれた。ここで得た経験、仲間、思い出を一生のものとし、今後に繋がるよう大切にしたい。

横手市消防本部 佐藤 初音

消防学校で過ごした六ヶ月間はとても内容が濃く、へこたれそうになることもありましたが、仲間と共に励まし合いながら自分を成長させることが出来ました。辛かったことも苦しかったことも、楽しかったことも嬉しかったことも、六七期の仲間と共に学び過ごした日々の思い出として大切にしていきたいです。

鹿角広域消防本部 田中 崇大

半年間のことを思い返すと、涙が溢れて視界がにじむので長いことは書けません、これだけは言わせてください。本当にありがとうございます。

能代山本広域消防本部 牧野 孔智

消防二年目での初任教育は、改めて自分を見つめ直す機会となりました。教官の方々から教わったこと、六七期のメンバーと過ごした日々を胸に新たな気持でまた前進しようと思ふ。

男鹿地区消防本部 蓬田 雄希

共同生活や訓練は想像以上に大変でありましたが、ハードルが高い分、その倍以上の達成感や充実感を得ることが出来ました。これからも消防士としての自覚を持って、訓練に励んでいきたいと思ひます。

大曲仙北広域消防本部 田近 美穂

初任教育はとても濃い半年間だった。消防学校を修了して初めて消防人生のスタート地点に立てたと思う。所属に戻っても学校で学んだ事を生かして、これからも毎日レベルアップしていきたい。

大曲仙北広域消防本部 吉田 瑞穂

長いようで短かった半年間でしたが、辛いことも楽しいことも一緒に乗り越えてこられたのも教官方、六七期の皆さんのおかげです。この出会いに感謝して、これからも大切にしていきたいです。ありがとうございます。

湯沢雄勝広域消防本部 小野崎雄太

最初は消防学校というものの存在を知っておらず、どのようなことをするのか楽しみにしていました。実際は座学や訓練の日々で何度も挫折しました。それでも、六七期の仲間の支えにより、何とか立ち上がる事ができました。この半年間はこれからの大きな財産となると思うので、この学校で学んだ事を所属に帰ってから生かして活躍していきます。

地域の防災、災害対策に貢献!

**消 防**  
 ポンプ自動車  
 小型ポンプ  
 ホース

**設 備**  
 火災報知器  
 スプリンクラー  
 消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
 山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

ポンプ ラビットポンプ  
 ソフト吸管 消防被服一式  
 各種消火器 消防機器一式

株式会社 **協 立**  
 株式会社 **能代消防センター**

〒016-0846 能代市栄町12の3  
 TEL (0185) (52) 6361  
 (52) 6494

## 第九回 消防団員 意見発表会(三)



大西 昭雄

鹿角市消防団  
分団長  
・勤続三〇年  
・会社員

温厚にして責任感が強く、地域と連携して消防団活動に精励している。

趣味はガーデニングで、特に自然石と花に熱を入れている。地域のバレーボールクラブで活躍したこともあり、多様な趣味と持ち前の運動能力で、団員からの信頼も厚い。

### 「消防団活動を振り返って」

私達の分団は、山間の静かな農村地帯の集落で、今若者が減少して団員不足でなかなか増えないのが実情です。

私自身は入団して三〇年になりましたが入団前は酒を一滴も飲めなかったのに、今では妻に「酒飲まない人と結婚したはずなのに」と愚痴を言われる始末でして、酒飲みはやりにくくなりましたけれど、団員の活気や親睦のためにも重要なことの一つだと思います。

私の消防活動を振り返って見ますと、一年目から小型ポンプ操法の一番員を命じられ、土のグラウンドでホース撤収までの操法、そして規律訓練選手を掛け持ち、大会終了後は緊張感と安堵感から閉会式で倒れて本部テントに運ばれ、アイスキャンデーをもらって食べたのが一つ目の思い出です。

二つ目は、昭和六二年頃、初めての水揚げ操法です。これもまた土のグラウンドでのホース撤収までの操法で、全身泥まみれの操法大会でした。七年にわたり一番員をやって来て結果はふるいませんでしたけど、貴重で思い出深い体験でした。

最後に平成二三年に宿命の分団担当の規律訓練に当たって指揮者をする事となり、早朝からの訓練でなかなか上手くいかず、仕事中に号令の掛け方を覚えようと口ずさんでいたらしく、会社の人から「なんかこの頃一人でブツブツ言っているけど大丈夫か」と言われ「消防の規律の掛け声言ってたんで」と言うのと「頑張れ」と励まされ、これではダメだと、夜遅くに大会会場の駐車場に向き、動きと位置確認の練習をしていると、警備員が来て「おたく何してるの、何か駐車場でうろついています。不審人物見かけたんで確かめに来ました。消防の練習してたんならい

いけど、警察に通報するところだった」との事で、冷や汗たらたら状態でしたが、「これからも夜遅くに来ますのでよろしく」と伝えておきました。今思えば、あの時に警察に通報されてたら規律訓練の伝説の人になっただけかもしれない。

過去にも規律訓練で「コチャコイ」伝説があります。私が入団前に規律の指揮者があんまりの緊張で行進中に号令の掛け方を忘れ、思わず「コチャコイ、コチャコイ」と言ったことを聞きまして、自分もかなりのプレッシャーで苦労しました。

結果、上位入賞はなりませんでしたが、無事最後まで成し遂げたことで満足感でいっぱいでした。

また、こうして皆さんの応援の下、今日は大勢の前に立てたことは、一生の思い出になると思います。これからも消防活動に頑張っていきたいと思えます。

本日は、ありがとうございました。



田村 東一

大館市消防団  
分団長  
・勤続四二年  
・農業

温厚誠実にして責任感が強く、日頃から消防人として使命感に燃え、

団員の親和と団結に努め、己に厳しく他に対する寛容な態度により、団員からの信頼も厚いです。

### 「私と地域消防団」

私は、消防団の制服、制帽を見るとその凛々しさに身が引き締まり、地域を守らなければという使命感に駆られます。

私自身は、家業を継いで就農したため、消防団への入団が早かったのですが、入団当初は火災出動が多く、今になっても度々当時の出動時の記憶、特に先輩達の勇姿が思い出されます。その先輩達の指導によって私と今の分団があるわけですから、あらためて感謝と尊敬の念を強く抱きます。

わが分団は、常に高い志と目標をもって、各種の訓練と活動に取り組んでいるわけですが、中でも中堅幹部の養成や初任者団員の意識、基礎訓練については特に力を入れており、消防人としての自覚はもちろん、他の団員や地域住民の信頼を得られるように日々心身の錬磨に励んでいるところであります。

また、消防団には各種大会がありますが、中でも自動車ポンプ操法は、私自身大変興味があったため、強いこだわりをもって取り組んでおり、支部の大会においては常に上位の成

績を収めております。

近年の消防活動は、火災はもとより年間を通じた自然災害に対応した活動も求められ、地域と一体となった防災体制を目指さなければなりません。

先日、私の住む地区において、土砂災害全国統一防災訓練が行われたところですが、これは、大雨によって発生した土砂崩れによる人家の損壊を想定したものでした。わが分団も大館市や消防本部と連携した避難勧告伝達や広報活動、避難誘導訓練、応急復旧訓練に参加し、土砂災害の現象や現場における新たな知識を得たところであり、大変有効なものであったと感じます。

今後も図上訓練、実践訓練と活動を進め、若い団員の新しい発想を取り入れるとともに、その行動力を力に、さらなる組織力強化に励む所存であります。



加藤 大輔

・藤里町消防団  
・勤続四年  
・社員

昨年愛娘が誕生、介護福祉士と実家の農業と日々忙しく過ごしている。父も消防団員だったため、幼少

期から身近に感じていた消防団。入団してからの四年間を振り返ります。

### 「消防団に入団してからの四年間を振り返る」

消防団に入団して四年という月日が経ちました。消防団は、かつて私の父も入団していたため、幼少期から身近に感じていました。私が小学生の時、消防団の旅行があり青森県三沢市に自衛隊の航空ショーを見に行った思い出があります。初めて見る外国人を指さして、友人と二人で「外人いだ、外人いだ」と大騒ぎしたのを思い出します。また父は、小型ポンプ操作の操作員でした。スパーに買い物に行くとき駐車場の白線を利用して、集合線の練習を人目ばかりからずには繰り返す父の隣で、恥ずかしくて恥ずかしくて、やめてほしいなと思っていた記憶があります。なぜそこまでして練習をしていたのか、実際消防団に入ってわかりました。旅行に行けたり、お酒を飲めたりするのが消防団だといった甘い考えも、実際の火災の現場に出て、そんな甘いものではないのだということに気づきました。

初めて火災の現場に出動したのは、入団して一年が経とうとしている時でした。仕事から帰る車の中から、

遠くの空に今まで見たことのないすさまじい黒煙が上がっていました。現場に着いてからはとにかく先輩の指示を聞いて、積載車からホースを持って水利まで走り、ホースを展開するということを繰り返しましたが、その日の夜はほとんど眠れませんでした。

それから私は、ポンプのエンジンのかけ方や操作は一人でできないといけないと思いついた練習をしました。また先日、私の恩師の家が全焼してしまうという火災が発生しました。明け方の四時でした。先生は火災警報器の音に気付き、二階の屋根から飛び降りて無事でしたが、先生の両親は焼け跡から遺体で見えなくなりました。先生は「なぜ私だけが生き残ったのか」「あの日から時間が止まっている」「こうなる以前に何かできることがあったのではないか」とおっしゃっていました。

火災は人間の生命及び財産を一気に奪い去ってしまうという言葉は良く聞いていましたが、私は今回の事が起きて、その言葉の重みを改めて実感しました。そして今後、火事は絶対に起こしたくない、起こしてはいけないと思います。そのために、私達消防団員ができることは何かを考えました。火災予防週間で世帯に

チラシを配る際は、必ず玄関におじやまして、そこにお住まいの方に直接「火の元には十分気を付けて下さい」などといった声掛けをすることが絶対必要だと思います。そうすることで、その住まいの方の防火意識を向上させることが大切なのではないでしょうか。

私はその地域住民一人ひとりの防火意識というものが、火災予防において最も重要だと思います。火イコール火事の元として考えることが出来れば、火事は少なくなると思います。

また今回の火災で、住宅用火災警報器の重要性が再認識されたと思います。藤里町は、全世帯に住宅用火災警報器の配布が済んでいます。今一度設置、点検を呼びかけることが必要なのではないでしょうか。また、冬の積雪時の消火栓、防火水槽の除雪も自分の担当の箇所は忘れずに行っていきたいと思えます。地域住民の生命及び財産を守るため、大切な家族を守るため、今後も消防活動を一生懸命行っていきたいと思えます。



支部情報アラカルト

消防団をより身近な存在に

湯沢市雄勝郡支部

今年、当支部管内で開催された住民運動会において、『消防』にちなんだレースを取り入れていただきました。

これは、災害等に対し昼夜を問わず活動されている消防団員と、そのご家族に対し感謝を伝えること、また、未来の消防団員である地域の子供たちに消防団をより身近な存在に感じていただくことを目的としております。

今年度

は、湯沢市幡野地区と山田地区、そして盆踊りで有名な羽後町西馬音内地区のご理解とご協力をいただき実施することができ、幡野地区と西馬音内では「消防親子レース」を、山田地区では「小型ポンプ操法」をご披露いただきました。



幡野地区



西馬音内地区

「消防親子レース」では、親子が一緒に水色のボールで火の的を倒すという内容で、半纏と豆絞りを身に付けた子供たちの姿が、とても可愛く微笑ましいレースとなりました。「小型ポンプ操法」では団員の機敏な動作と、迫力ある操法に住民の方々からたくさん歓声が上がります。子供たちからは、「かっこよかった」「私もやってみたい」という声が多く聞かれました。

消防団

をより身近な存在に感じてもらう、入団促進や防災意識の向上に繋がるよう、今後もこうした活動を継続していきたいと思っております。



山田地区

地震体験車が導入される

秋田県では、東日本大震災を受け、教育機関等における防災教育を支援し、より実践的な防災知識の普及啓発を図るため、地震の揺れ(震度二〜七の震度階毎)を体験できる「地震体験車」を導入しました。



詳細につきましては、秋田県総務部総合防災課ホームページをご覧ください。

火災の発生状況(速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成25年		平成24年			同期比較	
	9月	累計	9月	累計	年計	9月	累計
建物	12	149	24	187	237	-12	-38
林野	0	38	4	30	30	-4	8
車輦	3	32	3	27	38	0	5
その他	3	54	16	72	81	-13	-18
合計	18	273	47	316	386	-29	-43
死者数	0	15	1	15	20	-1	0
負傷者数	6	56	3	60	77	3	-4

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 Ⅱ(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 Ⅱ(0183)(73)2588

株式会社 夕カギ

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シパウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)